

長岡総合学園は栄養士・調理師・美容師教育の充実を目指し、別紙1を用いて自己点検自己評価を行った。

I～IXの категорияに分類した123項目について、別紙2に示すように各学校が実施した結果の平均を学園値とした。

また、28年度より評価の根拠となるデータの有無について項目を追加した。

9カテゴリーの指標を平均化した結果は28年度評価結果と対比し下記に示す表2及び図2のとおりである。

結果からはいくつかの категорияにおいて、向上した部分もあり教職員の努力から、評価の向上がみられる結果となった。

カテゴリー I・IIIにおいてはは昨年とほぼ同じ結果であった。

カテゴリー II の教育目標では両校共に3.0であった。しかし、卒業時の実践力の到達度状況や就労状況に対する企業評価等においてデータがない項目もあり、今後はこれらのデータを揃えることで真の3.0の評価となると言える。

カテゴリー IV では、特に目標達成の評価とフィードバックにおいて、教授・学習課程におけるフィードバックを確実にすることが課題となる。

カテゴリー V においては、評価指標であるデータを教育目標や就業規則としていることが分かった。学校の特色と教職員の個性に合わせた指標を示すことで、管理者会議の伝達が有意義となり、評価へとつながると考えられる。

カテゴリー VI においてはは昨年とほぼ同じ結果であった。

カテゴリー VII においては、両校共に卒業生の把握、動向、活用を課題として挙げている。

カテゴリー VIII は地域や高校でのボランティア活動、地域主催事業への参加はあるが、継続と更なる発展に努力が必要である事が記されている事から、期待できると考えられる。しかし、学生の視点から国際的視野を広げる機会を設けることも必要であり、課題である。

カテゴリー IX においては、教職員の研究や自己研修における体制整備が整いつつあることの成果により高ポイントとなったと考えられる。

次年度は自己点検自己目標の目的を踏まえ、コアとなるカテゴリー IV 教授・学習・評価課程のさらなる充実を目指すことで、あるべき姿である組織としての質の保証の実践へとつなげることが課題となり、日々の実践が評価されることに取り組むことが重要である。

表1 28年度自己点検自己評価 カテゴリー別平均点

評価項目	H28年度		
	学園	悠久山	美容
I 教育理念・教育目的	2.60	2.5	2.7
II 教育目標	3.00	3.0	3.0
III 教育課程の経営	2.70	2.6	2.8
IV 教授・学習・評価課程	2.65	2.4	2.9
V 経営・管理過程	2.40	2.4	2.4
VI 入学	2.75	2.5	3.0
VII 卒業・就業・進学	2.25	2.4	2.1
VIII 地域社会・国際交流	2.40	2.6	2.2
IX 研究	2.00	2.0	2.0

表2 29年度自己点検自己評価 カテゴリー別平均点分布

評価項目	H29年度		
	学園	悠久山	美容
I 教育理念・教育目的	2.75	2.8	2.7
II 教育目標	3.00	3.0	3.0
III 教育課程の経営	2.65	2.6	2.7
IV 教授・学習・評価課程	2.70	2.6	2.8
V 経営・管理過程	2.60	2.5	2.7
VI 入学	2.75	2.5	3.0
VII 卒業・就業・進学	2.25	2.4	2.1
VIII 地域社会・国際交流	1.85	2.1	1.6
IX 研究	2.00	2.0	2.0

図1

28年度

— H28年度 学園 — H28年度 悠久山 — H28年度 美容

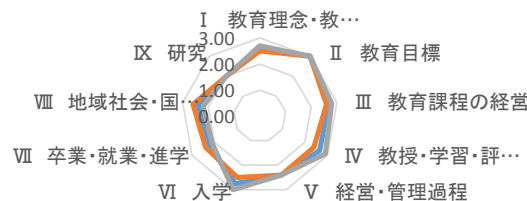


図2

29年度

— H29年度 学園 — H29年度 悠久山 — H29年度 美容

